

(9) 四国



四国地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

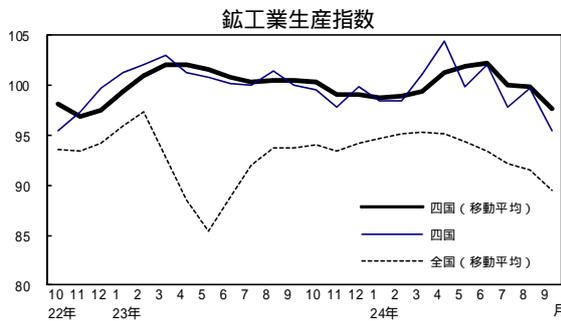
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 8 月)	今回 (平成 24 年 11 月)	
景況判断	持ち直し	弱含み	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	緩やかに減少	
個人消費	緩やかに増加	弱含み	
雇用情勢	持ち直しの動きに一服感	持ち直しの動きに足踏み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

化学は、ポリカーボネートが海外の需要減の影響を受けて低下したこと等から減少している。電気機械は、前期に開閉制御装置で大型の出荷があった反動や、蓄電池で海外需要に若干の一服感が出てきたこと等から減少している。食料品は、菓子や調味料等で減少している。パルプ・紙は、一部の工場で定期修理があったこと等から減少している。一般機械は、基礎工事用機械や化学機械・貯蔵槽でまとまった出荷があったこと等から増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.1	19.0	11.8	6.8	1.7
電気機械	15.4	4.6	7.4	3.2	2.4
食料品	13.6	1.2	2.9	3.8	0.6
パルプ・紙	11.8	4.3	2.4	0.5	5.9
一般機械	8.9	3.4	1.9	5.5	16.2
鉱工業	100.0	2.8	4.4	3.2	0.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

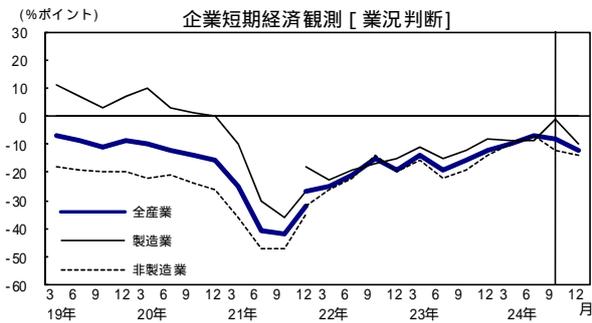
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

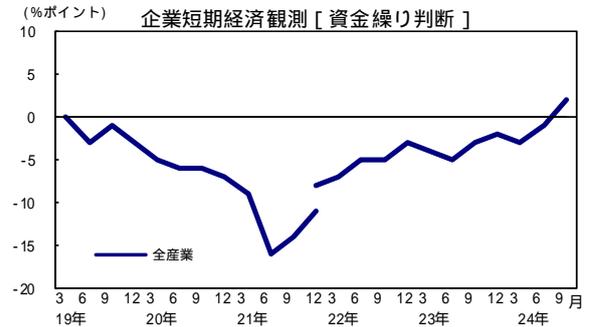
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

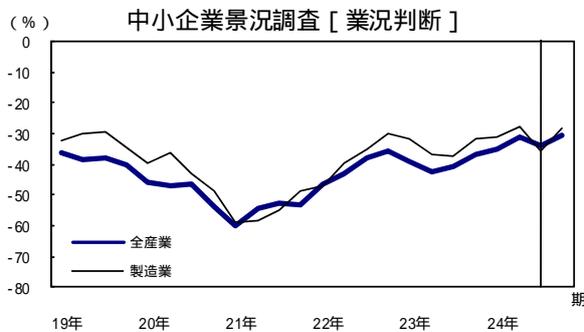
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

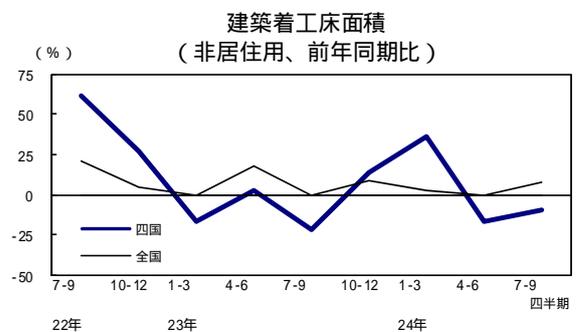
「状況は安定してきている。資材価格が安定しており、特に用紙は値下がりが見込まれる(広告代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	16.6	8.7(0.7)
製造業	16.6	16.9(3.6)
非製造業	16.6	3.4(2.9)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

大型小売店販売額

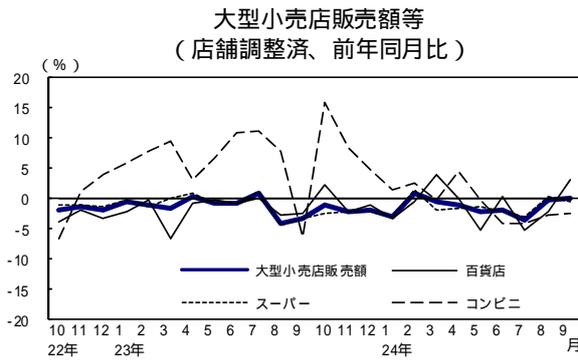
大型小売店販売額は、前年同期比で1.3%減、前期比で0.4%増となった。

百貨店は、7月は前年に比べて前半の気温が低く、雨天も多かったことから客足に影響がみられたことや、衣料品で開始時期が分散したクリアランスセールが振るわなかったことなどから前年を下回った。8月は残暑の影響などにより秋物衣料の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。9月は前年に比べ台風の影響が少なかったことや、日曜日が1日多かったことから前年を上回った。

スーパーは、家庭用電気機械器具で引き続き前年の地上デジタル放送への完全移行に伴う駆け込み需要の反動がみられたこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「世界的に話題の新製品が発売されたが、業界全体の販売量は、昨年と変わらないと思う(通信会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.8	1.0	1.7	1.3
百貨店(*1)	0.5	0.2	1.6	2.0
スーパー(*1)	2.3	1.3	1.8	1.1
大型小売店(*2) (季節調整値)(*3)	0.5	0.9	0.3	0.3
	(0.3)	(0.2)	(0.3)	(0.4)
乗用車(*4)	20.5	51.9	77.2	24.5
(季節調整値)(*4)	(6.8)	(23.3)	(3.8)	(7.6)

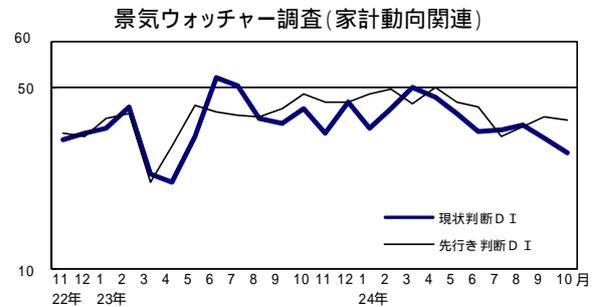
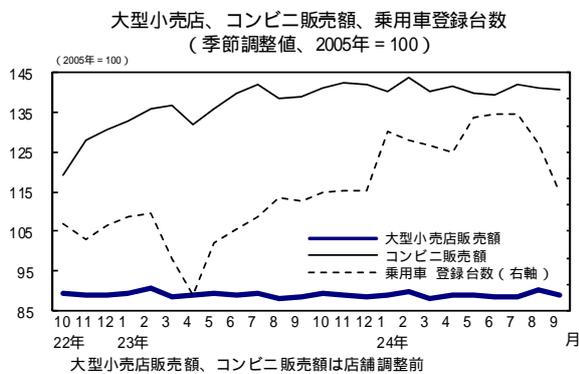
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

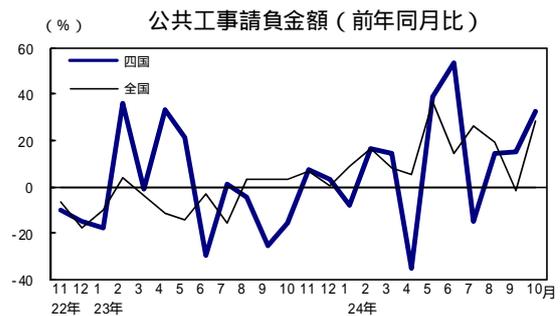
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

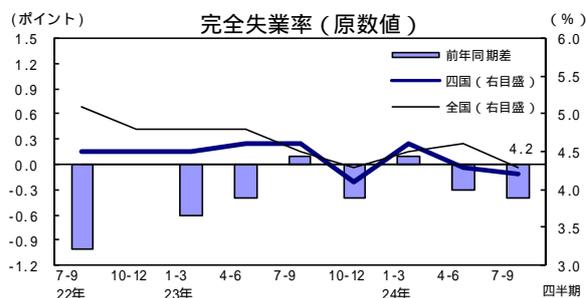
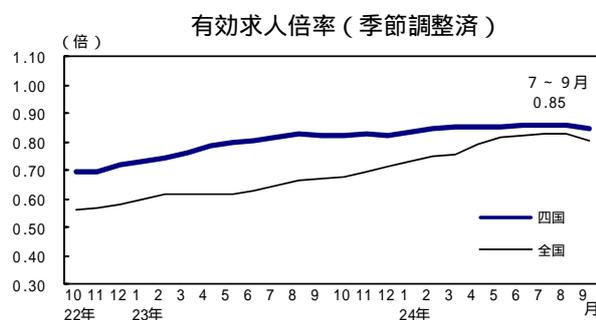


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

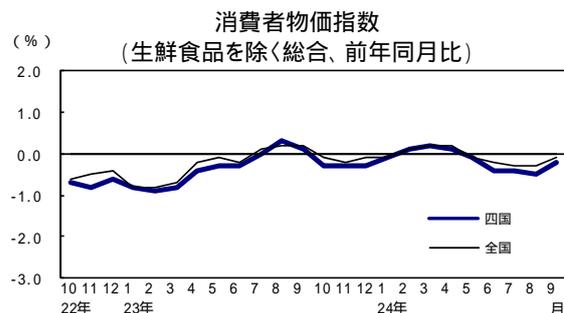
「10月の労働者派遣法改正による、日雇い派遣の原則禁止の影響から、緊急時の人材確保が出来ない状況にある。派遣会社も派遣社員にかかわる需給調整が出来ていない（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	58	72	63	69	30
(前年比)	10.8	0.0	14.5	13.8	100.0
負債総額	120	141	139	194	96
(前年比)	19.9	13.2	12.2	22.3	193.9



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・6月以降、業界全般で、売上の前年割れが顕著となっている。また、競合店との顧客の奪い合いが激しくなっている（スーパー）。

<先行き>

- ・円高の影響で、受注が激減すると予想しており、悪くなると予想する（鉄鋼業）。

